



『魅せる』ことで地域に生まれる“変化”や“新たな価値”を探る 東北オープンファクトリーフォーラム vol.2

東北のものづくりや産業における新たな魅力発信の手段としての「オープンファクトリー」について語り合うフォーラムを福島県郡山市にて開催しました。

基調講演では新潟の「燕三条 工場の祭典」、大阪の「FactorISM」のキーパーソンをお迎えして、地域一体型オープンファクトリーの先進的な取組をご紹介いただきました。

パネルディスカッションでは、東北のオープンファクトリーの取組のキーパーソンを交え、「『魅せる』ことで地域に生まれる“変化”や“新たな価値”を探る」をテーマに、各地の取組におけるナレッジをシェアいただきました。以下概要を報告いたします。



日 時：令和5年2月17日(金)13:30-16:00
会 場：ハイブリット開催(会場：郡山商工会議所)
主 催：経済産業省東北経済産業局（事務局：株式会社地域ブランディング研究所）
協 力：郡山市、オープンファクトリー郡山実行委員会

登壇者

【新潟】 燕三条 工場の祭典
(株)玉川堂 番頭 山田 立氏

【遠野】 遠野しごと展
(株)富川屋 代表/ローカルプロデューサー 富川 岳氏

【大阪】 FactorISM
(株)友安製作所 ソーシャルデザイン部
担当執行役員 松尾 泰貴氏

【郡山】 オープンファクトリー-KORIYAMA
日ノ出工機(株) 取締役総務部長 渡辺 拓美氏

パネルディスカッション ファシリテーター
マナブデザイン(株) 代表取締役 高橋 学氏(オープンファクトリー-KORIYAMA プロデューサー)

プログラム

【イントロダクション】

東北経済産業局 横田係長より、当フォーラム開催の目的や想いをお話しました。

- ・オープンファクトリーは、ものづくりの現場の公開やものづくり体験を通じた来場者との交流を通じて、従業員の人材育成の効果が大きく、企業のインナーブランディングに繋がっている。
- ・関東、関西で地域一体型の取組が広がっており、東北でも新たな取組が誕生していることに加え、オープンファクトリーの取組を通して、地域内外、業種を超えた繋がりや交流が生まれ、イノベーションを創出する苗床となっている。
- ・以上のことから、当局では東北の新たな魅力発信の手段として「地域一体型オープンファクトリー」の取組の機運醸成を図っていききたい。





「燕三条は工場で人をつなげる
～新潟県燕三条の取組～」

(株)玉川堂 番頭 山田 立氏

POINT

- ・生産現場を見てもらうことが、燕三条で育んできたものづくりの価値を伝える一番の手段と考え、工場の祭典を立ち上げ。何をやってもいいが、迷ったら立ち戻れるようコンセプトを設定。
- ・40人ほどの移住者が、職人の担い手として活躍。また地域の子供たちにとっては、親の働く姿を見ることで、情操教育や地域の誇りの醸成に繋がっている。
- ・ショップを併設するなど受入れ体制を整備する工場が増え、今では25軒ほどの工場で、通年で受入れが可能に。3年前に旅行業の免許を取得し、通年でツアー形式の案内も開始。
- ・職人の「気づき」が、オープンファクトリーの一番の効果。いかに伝えるか、工場を魅せるかを考えることで、インナーブランディングに繋がっている。
- ・今後も町工場を発信拠点として、国内外から燕三条に来ていただき、こだわりや思いを現場で伝え、技術を残していくというところに繋げていきたい。



「まちが、こうばがエンターテインメントに変わる！
～FactorISMの取組～」

(株)友安製作所
ソーシャルデザイン部 担当執行役員 松尾 泰貴氏

POINT

- ・地域にはBtoB企業が多く、「僕らのこと誰も興味ないと思う」という中小企業と出会い、自分たちの姿を自分たちで発信する術を考えるため、オープンファクトリーに取り組み始めた。
- ・自由に楽しく自分ごとにするのがFactorISMらしさ。広報研修やお互いの工場視察を行うなど事業者同士で学び合う機会をつくることで、地域にワクワクや面白がる力が広がっている。
- ・ルーティン化すると楽しくなくなり、相手に伝わるので毎年テーマを変更。参加企業が自分たちの事業として事務局、広報活動、協賛金集めも自主的に取り組む。
- ・FactorISMが単なるイベントではなく、コミュニティになっており、大企業、金融機関、メディアなど「なんか一緒にやりませんか」とコラボの誘いが増加。
- ・今後も工場がまちのエンターテインメントに変わる瞬間をつくるため、いろんな策を考え、いろんなコラボレーションをしてどんどんまちを良くしていきたい。

[パネルディスカッション]

東北の取組紹介



遠野の企業と仕事に出会う
「遠野しごと展」の取組

(株)富川屋
代表/ローカルプロデューサー 富川 岳氏

POINT

- ・市内企業が人材確保に危機感を持っており、求職者や市民に遠野の仕事や企業を知ってもらう場として「遠野しごと展」を2022年11月初開催。
- ・「人材育成」も目的の1つで、若手社員が自社の強みや魅力を伝えるための研修を実施。
- ・ワークショップやトークイベントなど企業の魅力をアウトプットする場を企画、遠野の企業を知ってもらう第一歩に繋がった。
- ・来年度以降、工場見学や求職者支援組織、中高生との連携など検討しながら、遠野で働く・暮らすことがイメージできる複合的な取組にしていきたい。



福島県内初！
「オープンファクトリー KORIYAMA」の取組

日ノ出工機(株) 取締役総務部長 渡辺 拓美氏

POINT

- ・自社の技術、郡山の仲間、町工場のチカラを多くの人に伝えたいと思い、「オープンファクトリーKORIYAMA」を2022年10月初開催。
- ・1日目は高校生、2日目は一般の方を対象に実施。地元の専門学校とも連携。参加者がみんな笑顔だったので、自分たちの工場には人を笑顔にする力があると実感。
- ・取組を通して、仲間との絆、他地域との新たな繋がり、挑戦する気持ちやイノベーションを起こすきっかけを得ることができた。
- ・2023年も開催決定！「共創」する町工場を目指し、郡山の製造業の新時代をつくっていききたい。



トーク1 立ち上げフェーズの苦労、心掛け

「ビジョンや意識の共有は最初はすごく大変！ けどすごく大事!!」

「取組に賛同してもらうため『オープンファクトリーをやりましょう』と市内企業一社一社に説明」(富川氏)、「『なぜやるのか』、『何を指すのか』というイメージの共有に時間がかかった」(渡辺氏)、「この指止まれで、賛同してくれる人と取り組んできた。参加企業は来る者は拒まず、去る者は追わず」(山田氏)、「最初は大変だけど動き出してフォロワーがつく、フォロワーにいかにか理解してもらうかが大事。FactorISMの準備期間の大半はビジョンや意識の共有の議論」(松尾氏)

トーク2 地域の変化・新たな価値を探る

「地域に“プライド”や“新たなつながり”が生まれる！」

「包摂的なコミュニティができあがり、参加企業と学生ボランティアがいつの間にか繋がっているなど、小さな化学反応がすごく起こるようになった」(松尾氏)、「母親が働く会社の取組を知った子供が『遠野に生まれて良かった』と言ってくれた。10～20年かけて循環してくると思うので、そういう子を1人でも多く増やしていきたい」(富川氏)、「地元の人には大きな力、地元の人にこそ知って欲しい。地域のプライドに繋がる。第三者の評価が地元を見つめ直す機会になるので、アワードにも挑戦」(山田氏)、「参加した学生が『工場って面白い！ イメージが変わった！』と、遠い世界にあった工場に興味を持ってくれた。そして職人の嬉しそうに話す姿が印象的。」(渡辺氏)

トーク3 地域の変化・価値最大化の秘訣

「『ワクワク』を生み出すため、変化を与え続ける!」「民間・クリエイティブチーム・行政の三位一体!」

「『ワクワクさせる』ことが一番！ ワクワクを生み出すために常に変化を与え続けることが大事」(松尾氏)、「目指すところは一緒！ 民間とクリエイティブチームと行政が三位一体で取り組む」(山田氏)、「ものづくりや職人のまちと呼ばれていない地方都市におけるオープンファクトリーのベストな形を模索していきたい」(富川氏)、「オープンファクトリーを通してできた繋がりを大事に、郡山を盛り上げていきたいと決意」(渡辺氏)

おわりに 東北へのメッセージ

「正解はないので、2、3社でいいからやってみて、どんどん改善していくことが一番の肝。つまりポイントはあるので、お手伝いできることがあれば。ぜひやってみて下さい！」(山田氏)

「人と人との出会いでしか人は成長しないと思うので、人との出会いの数や加速度を街中で上げていくにはオープンファクトリーはちょうど良い。ぜひまた呼んでください！」(松尾氏)

[総括: マナブデザイン(株) 高橋氏]

今回のキーワードは、「ワクワクする」ということ。そして「続けることは繋がること、繋がることは広がること」。これらを循環していくと、地域を盛り上げるエネルギーになり、どんどん楽しくなってくる。そしてその先にある難しさも教えていただいたので、各地で新しい取組を始める方は、ぜひこのキーワードを胸に置き、取り組んでいただきたい。

